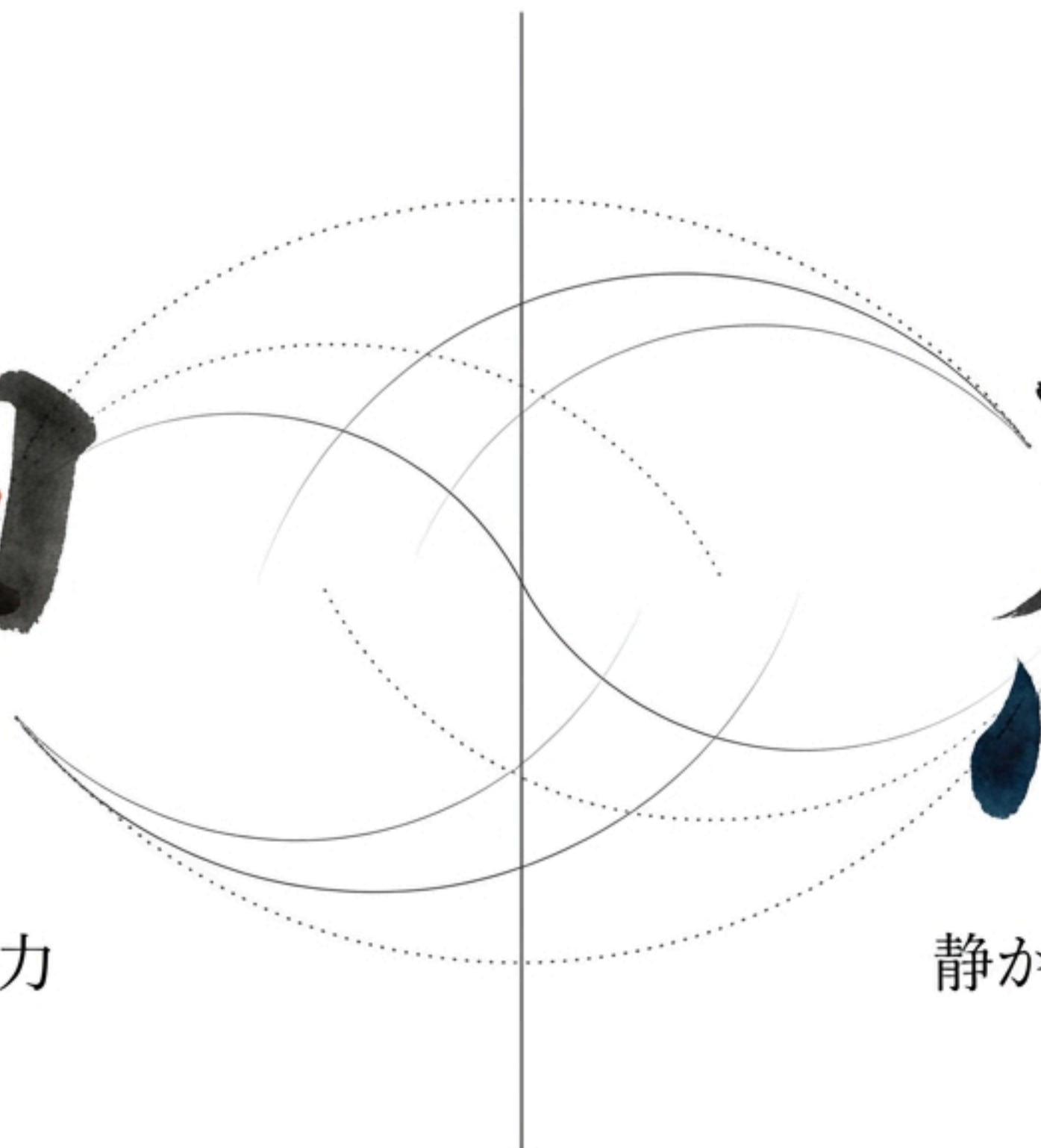


押忍という均衡の美学
T A O I S M

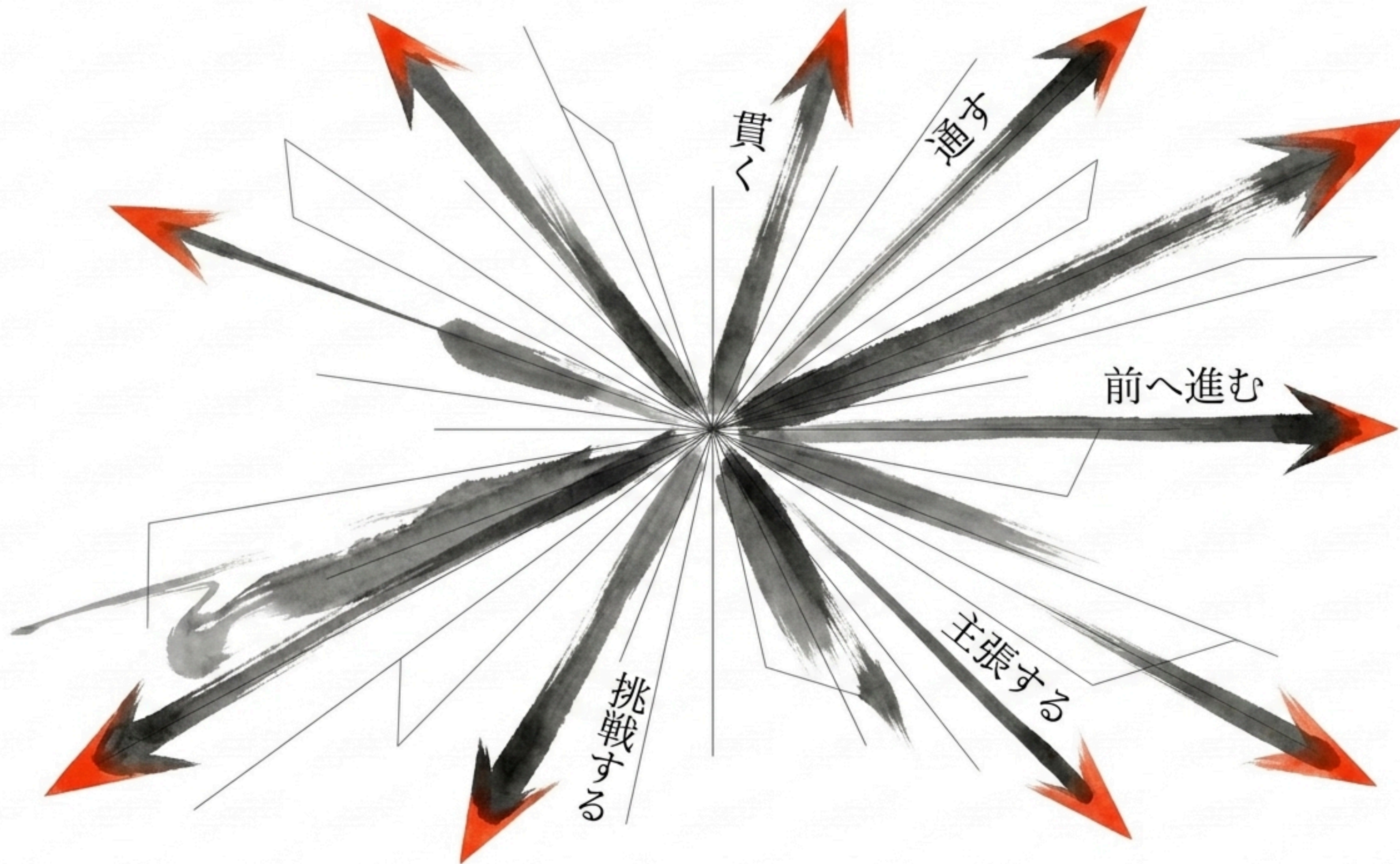


強く前へ出る力



静かに内へ収める力

正反対の性質に見える。しかし、この二つは対立しているのではない。補完しているのである。





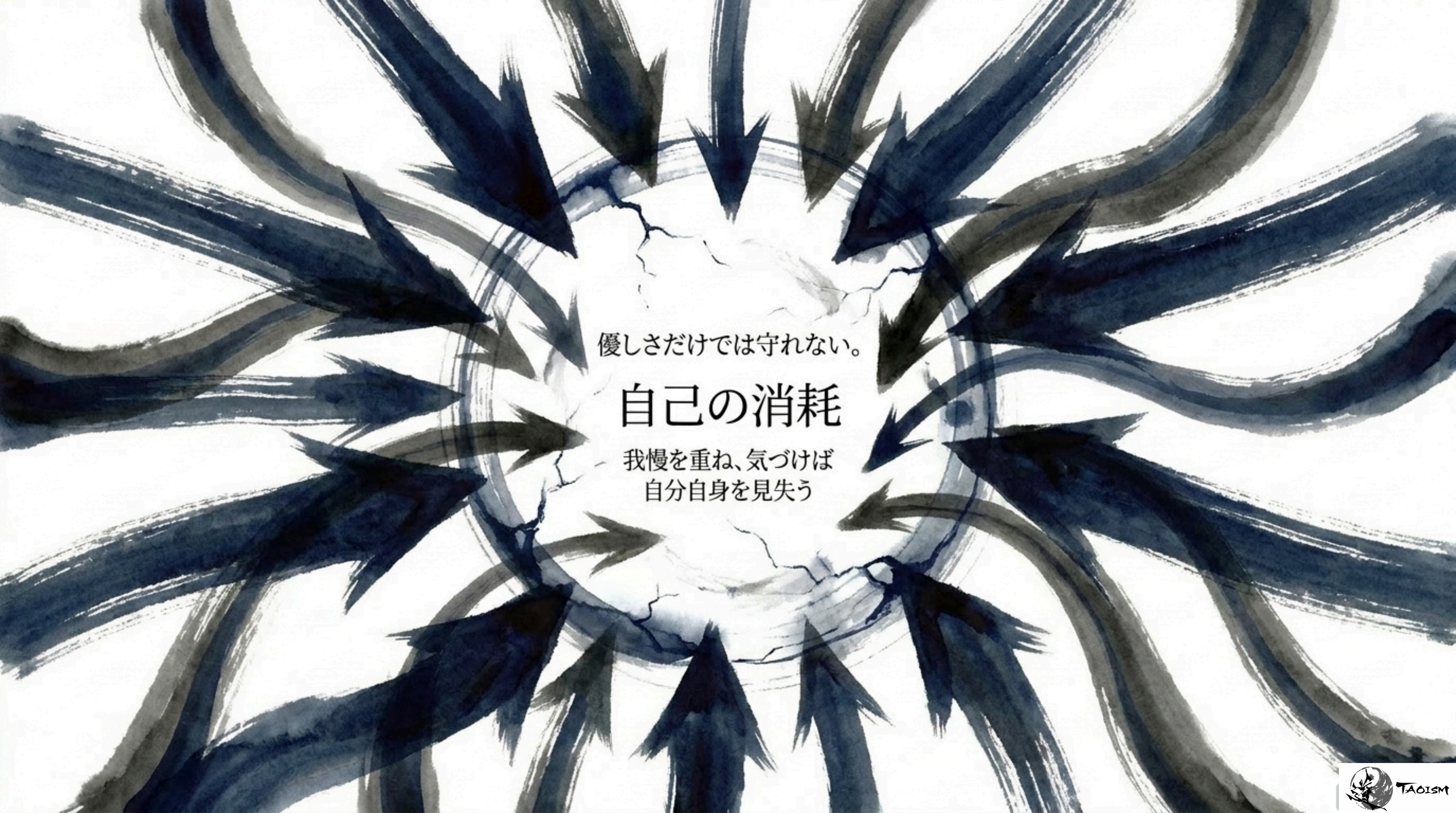
耐える
受け止める
待つ
譲る



強さだけでは壊れる。

周囲との摩擦

自分の正しさを貫こうとするあまり、
関係を壊してしまう



優しさだけでは守れない。

自己の消耗

我慢を重ね、気づけば
自分自身を見失う



戦うべき時は戦う。待つべき時は待つ。この両方を同時に持つ姿勢。それが押忍の本質である。

押=陽（動く力・切り開く力・外へ向かう力）



忍=陰（受け止める力・育てる力・内へ向かう力）

陽だけでは燃え尽きる。陰だけでは停滞する。

押す

受け止める

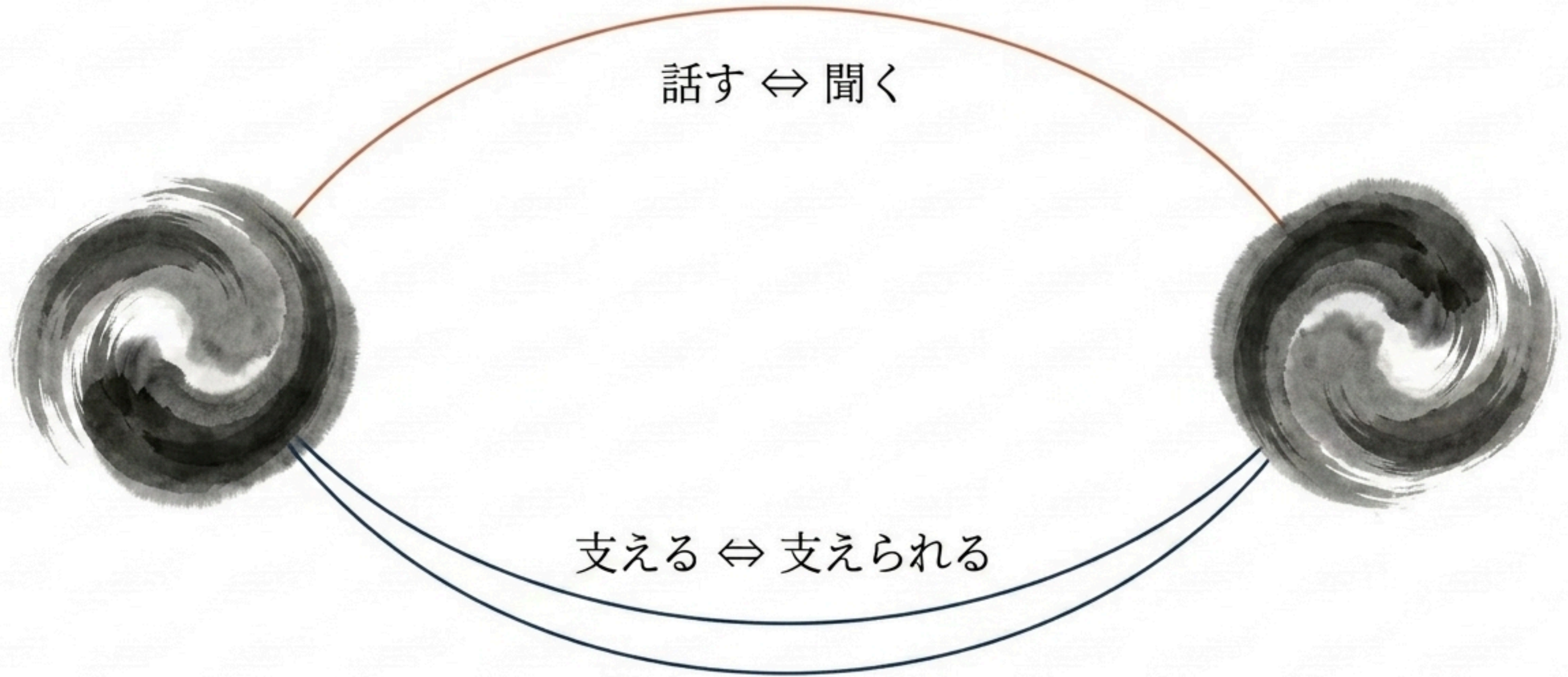
動く。受け止める。

その流れが回り続ける時、人は自然体で強くなれる。

進む。待つ。

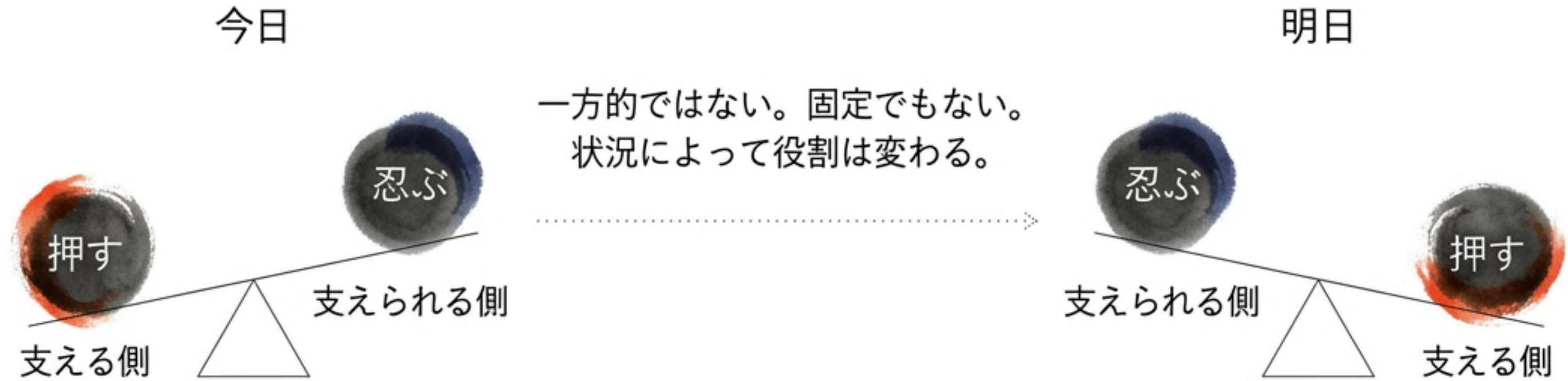
受け止める

押す



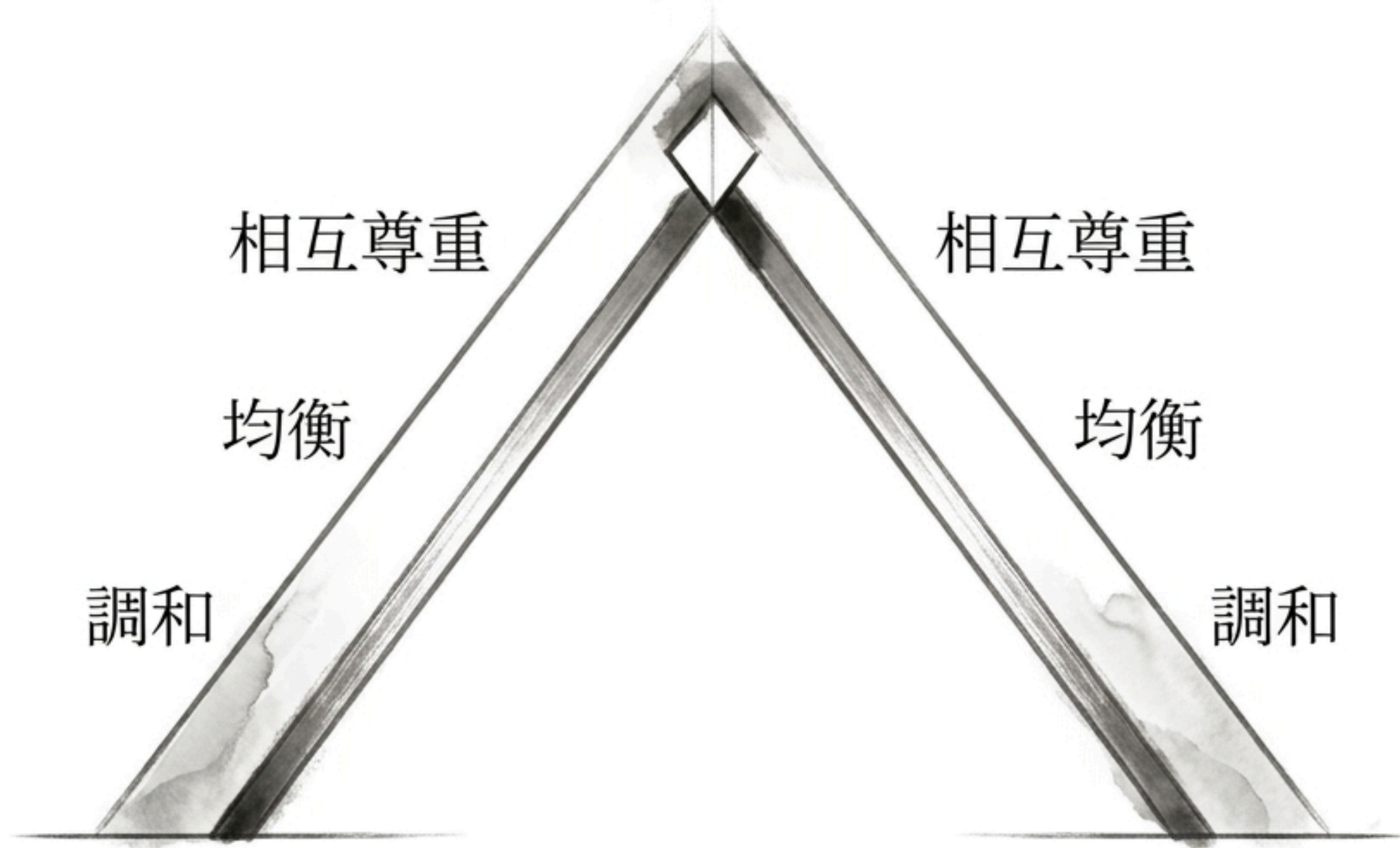
どちらか一方だけが押し続けければ、相手は疲れる。どちらか一方だけが忍び続けければ、関係は歪む。押忍とは、関係性の均衡を保つ知恵でもある。

もちつもたれつの構造



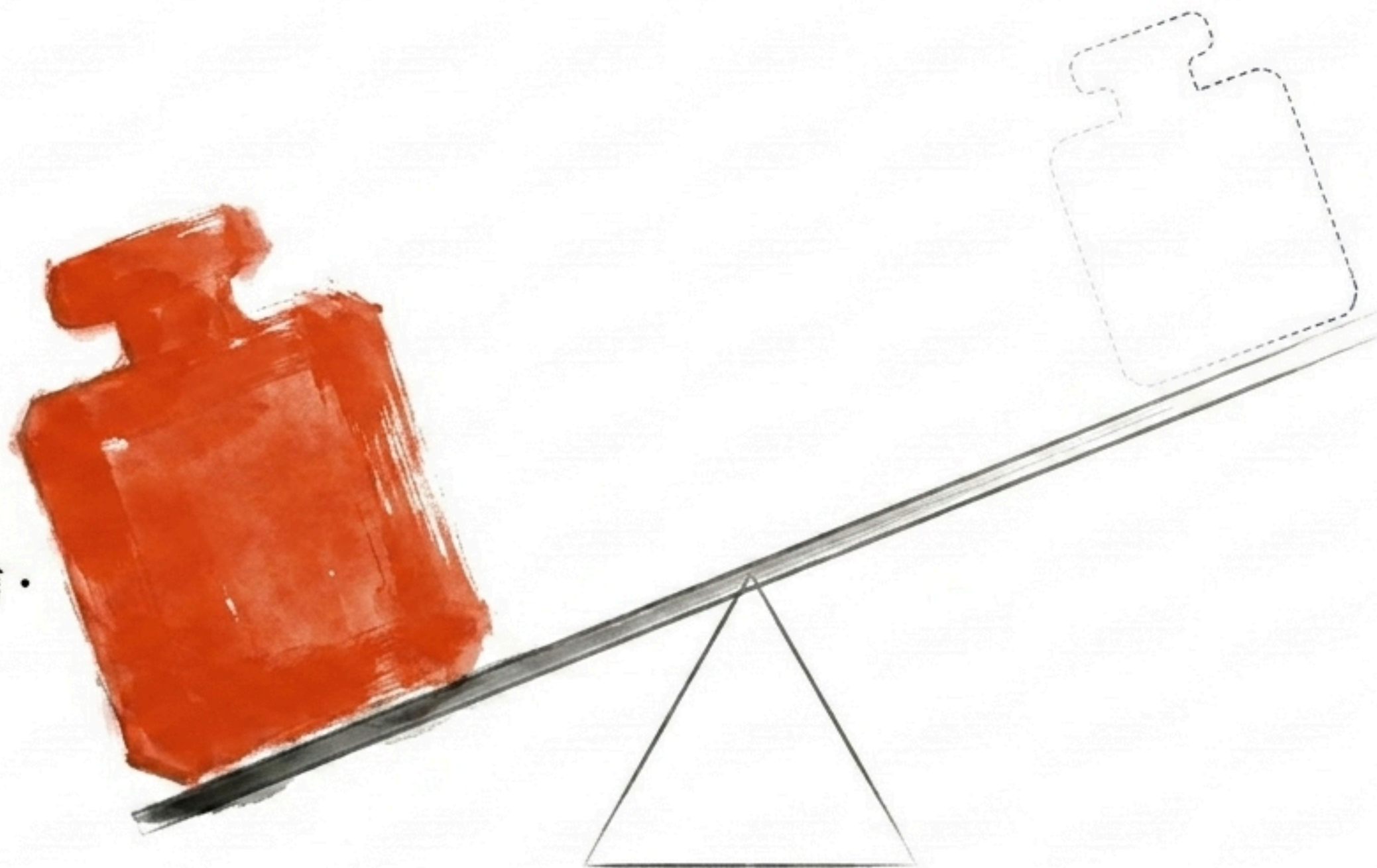
今日は支える側。明日は支えられる側。
今日は押す側。明日は忍ぶ側。
その変化を自然に受け入れる。そこに和が生まれる。

和



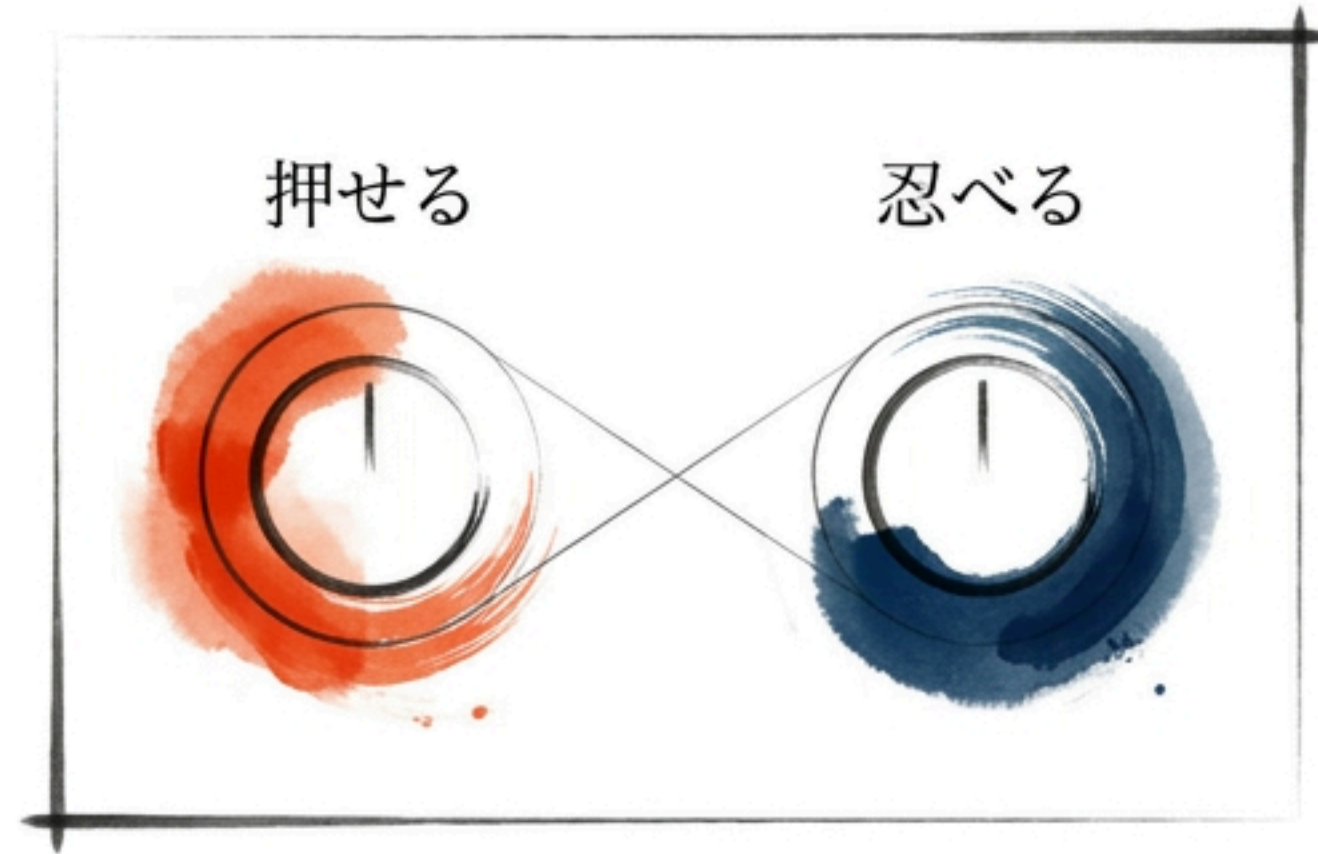
多くを語らない。意思は伝わる。余計な説明をしない。覚悟は伝わる。言葉を減らし、姿勢で示す。

現代社会
(自己主張・発信・
競争・成果)



失われつつある力
(待つ力・受け止める力・
聞く力・育てる力)

現代は、押すことばかりが評価されやすい。



どちらか一方ではなく、両方を使いこなせる。
それが成熟である。



押忍。それは気合の言葉ではない。調和の言葉である。
強さと優しさ。主張と尊重。行動と受容。
その均衡を忘れないための、生き方そのものなのである。